

授業科目名	在宅看護学Ⅱ(緩和ターミナルケア)	担当教員	◎千葉恵子、新田静江
必修	開講年次：3年前期	単位：1単位	授業形態：講義 15時間

【授業概要】

人生の最後の時間を家庭で家族とともに過ごしたいという患者が少なくはない。このコースは、在宅看護の一部として、緩和ケアと終末期のケアにおける看護師の役割について考察する。また終末期における緩和の方法論（薬剤その他の活用による）について論議する。

【授業目的・目標】

1. 緩和ケア看護学の考え方について説明できる。
2. ターミナル期にある人の特徴について説明できる。
3. 緩和ケアを含む終末期ケアにおける看護の役割と方法について説明できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|------------------------------|------|
| [01] エンド・オブ・ライフケアにおける看護の役割 | (千葉) |
| [02] 神経難病患者が直面する課題と看護 | (新田) |
| [03] 在宅での看取り | (新田) |
| [04] 疼痛マネジメントと看護師の役割 | (千葉) |
| [05] エンド・オブ・ライフケアにおける倫理的問題 | (千葉) |
| [06] 患者の意思決定を支えるためのコミュニケーション | (千葉) |
| [07] 喪失・悲嘆・死別 | (千葉) |
| [08] 臨死期のケア | (千葉) |

【教科書】

梅田恵・射場典子（編）2011）：看護学テキスト NICE 緩和ケア 大切な生活・尊厳ある生をつなぐ
技と心 南江堂

【参考書】

指定なし

【評価方法・評価基準】

課題(20%)・試験(80%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業で指定された事前課題にそって、在宅看護学Ⅰ・成人看護学概論・慢性期成人看護援助論の授業の振り返りをしておく。

事後学習：日々の授業を復習し、課題について記述できるようにすること。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題については、成績評価後に返却する。

【備考】